

学校行事が生徒の人格形成に及ぼす影響について

(3) 音楽祭

筑波大学附属駒場中高等学校 生徒部

鹽谷 健・岡崎 勝博・曾根 睦子・遠藤 正之
小澤富士夫・入江 友生・高橋 宏和・八宮 孝夫

学校行事が生徒の人格形成に及ぼす影響について

(3) 音楽祭

筑波大学附属駒場中高等学校 生徒部

鹽谷 健・岡崎 勝博・曾根 睦子・遠藤 正之
小澤富士夫・入江 友生・高橋 宏和・八宮 孝夫

第1章 調査の意図と対象者

1. はじめに

前回の調査（「学校行事が生徒の人格形成に及ぼす影響について（1）文化祭」）において、1. 文化祭が生徒各自の人格の形成に多大な影響を及ぼしており、影響が「大いにあった」「少しはある」と答えた生徒は各学年とも70%以上存在し、高校3年生にいたっては約45%の生徒が「大いにある」としていた。次に、2. 人格への影響の内容についてみると、各学年とも「忍耐力」「責任感」を第一にあげており、文化祭での共同作業がこれらの能力を必要としていることが理解された。また、3. 文化祭での友人関係については、普段の友人関係よりも「文化祭は、友人をよく知るよい機会」であると感じており、その数は各学年75～85%になっていた。そして高校3年生では91%もの生徒が友人をよく知る機会であるとしていた。

前調査より、文化祭が生徒の人格の形成（自分づくり）や友人関係を構築するうえで非常に大きな影響を及ぼしていることが明らかにされ、そしてこの関係を成立させるものとして文化祭の質の高さや学校文化が重要な働きをしていることが考えられた。

このように、学校行事が担っている人格形成作用を明らかにしていくことは、学校行事が持っている教育的価値を見直していく作業であり、教科指導とともに学校における教育機能として欠くことのできない教育活動であることを確認することになる。

2. 本研究の目的

本校では、「駒場水田」を利用した勤労体験学習、校外学習、音楽祭、体育祭、文化祭、ロードレースなど、年間を通じてさまざまな学校行事が位置づけられており、またその取り組みは中・高6か年教育の中でも位置づけられている。

多くの生徒は教科の学習による「観」の形成とともに学校行事に参加する中で人格の形成（自分づくり）を行っている。しかしこれらの学校行事が生徒の自分づくりに影響を及ぼしているこ

とは理解されるのであるが、それがどのような過程で、またどのように影響を及ぼしているのかについては十分に明らかにされていない。そこで本研究では、音楽祭に焦点を当て、これらの学校行事が生徒の人格の形成に及ぼしている影響を明らかにすることを目的とした。

3, 調査方法, 時期

本調査の実施は、1996年（平成8年）7月中旬に行われた。

4, 調査対象者

調査対象者は中学生男子367名、高校生男子478名、計845名を対象とした。

中学1年生	123名	高校1年生	160名
中学2年生	123名	高校2年生	157名
中学3年生	121名	高校3年生	161名

第2章 音楽祭の特徴と対象者の特性

(1) 音楽祭の特徴

音楽祭は、校外学習のおよそ1か月後の6月下旬に行われている。学外のホールを会場にして、中高別にクラス単位で合唱を競っている。中学は毎年音楽科より指定される課題曲1曲とクラスで選んだ自由曲1曲を、高校はクラスで自由曲2曲を選択する。自由曲の選定は1か月前より学級会・HRの時間に行われる。

曲が決まった後の練習は、中学は音楽の時間とクラスの自主的な早朝練習・放課後練習時、学級会時などに行われる。高校は音楽の時間がないので、自主的な早朝練習・放課後練習時、HR時のなどに行われる。

各クラスの練習は、指揮者とパートリーダーにより運営され、学校全体の連絡や調整は各クラスの音楽祭実行委員により行われている。

(2) 対象者の分類

今回の調査では、音楽祭についての生徒の意見や考え方、また音楽祭による人格形成への影響を検討するために生徒の類型化を行った。

類型化は、音楽祭への参加意欲を横軸にとり、次に生徒の役割を縦軸にとって類型化を試みた。この関係を分類してみると次のようになる。

横軸：「あなたは、音楽祭にどのように参加しましたか。」

- [1] 積極的に参加していた [2] まあまあ積極的に参加していた [3] ふつう
[4] どちらかというと消極的な参加 [5] まったく消極的な参加

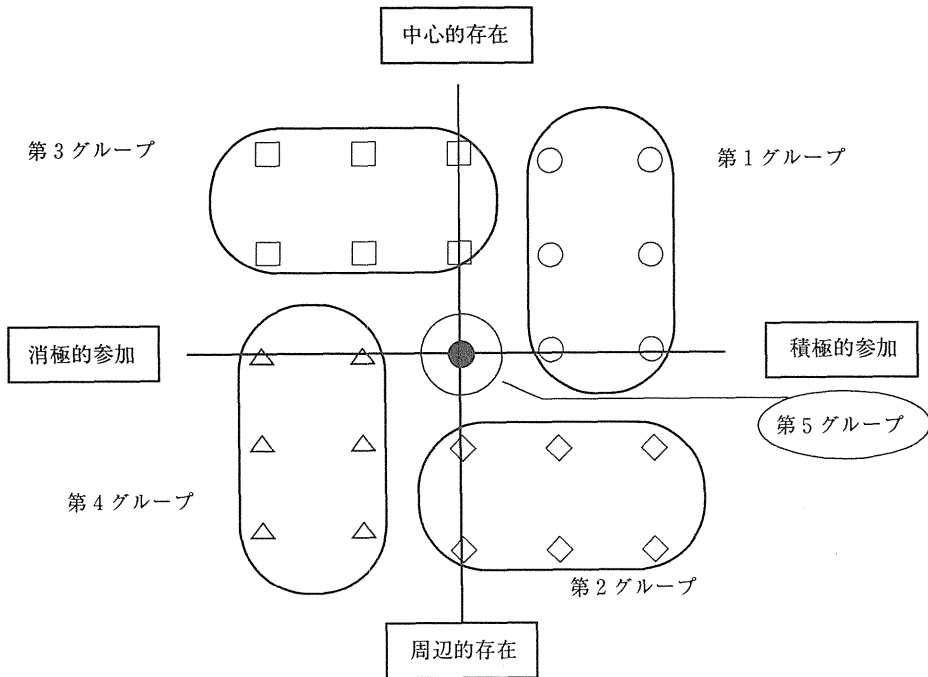
縦軸：「あなたは、クラスの活動においてどのような役割をはたしていましたか。」

- [1] 中心的存在 [2] 一緒に企画を進めている存在 [3] 与えられた仕事はこなす存在
 [4] どちらかという仕事から逃げ回っている存在
 [5] ほとんど企画や仕事にかかわっていない存在

表1. 「対象者の分類」

	横 軸	縦 軸
第1グループ <積極推進派>	「積極的に参加している」 「まあまあ積極的に参加している」	「中心的存在」 「一緒に企画を進めている存在」 「与えられた仕事はこなす存在」
第2グループ <フォロアー>	「積極的に参加している」 「まあまあ積極的に参加している」 「ふつう」	「仕事から逃げ回っている存在」 「ほとんど企画や仕事にかかわっていない存在」
第3グループ <冷静派>	「ふつう」 「どちらかという消極的参加」 「まったく消極的な参加」	「中心的存在」 「一緒に企画を進めている存在」
第4グループ <消極逃避派>	「どちらかという消極的参加」 「まったく消極的な参加」	「与えられた仕事はこなす存在」 「仕事から逃げ回っている存在」 「ほとんど企画や仕事にかかわっていない存在」
第5グループ <中間派>	「ふつう」	「与えられた仕事はこなす存在」

図1. 音楽祭への参加形態

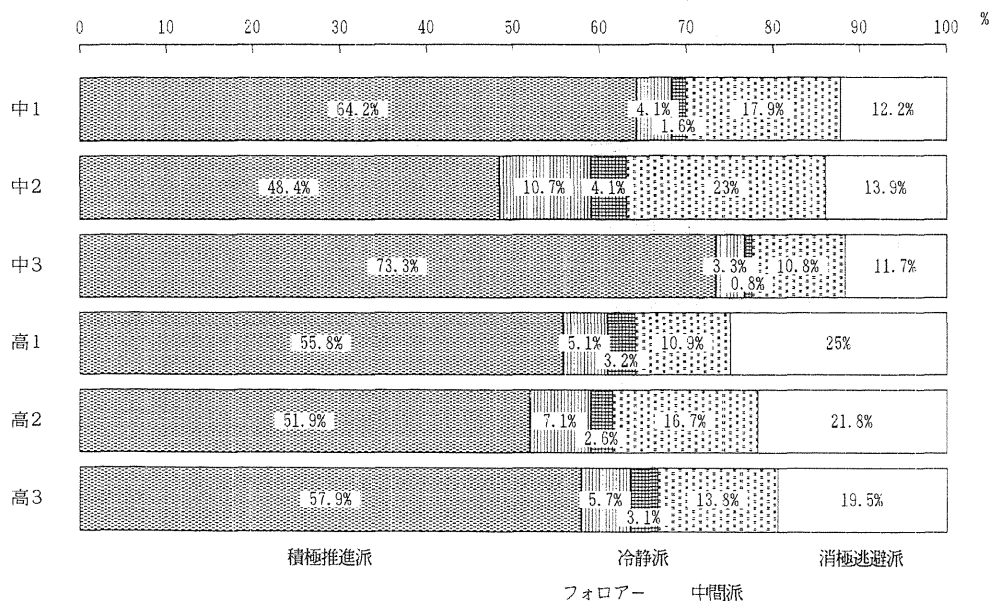


文化祭、校外学習と同様の分類方法で音楽祭への参加態度を分類した。

中学2年以外は、各学年とも50%以上の生徒が積極推進派となっており、音楽祭への関心の高さが示されている。中学1年は、各行事それぞれ関心が高い傾向が見られるが、中学3年と高校3年でも関心の高さが示されている。これは中高のそれぞれの最高学年として優秀な賞を得るために熱心になるからである。

音楽祭は他の学校行事と比べて学年の特徴が出やすい行事である。音楽が得意な生徒やピアノ演奏が上手な生徒が学年に多数存在すると、その学年の合唱レベルが高くなり、音楽祭への熱意も上昇する。

図2. 対象者の類型化



第3章 積極派の参加理由と消極派の参加理由

(1) 積極派の参加理由

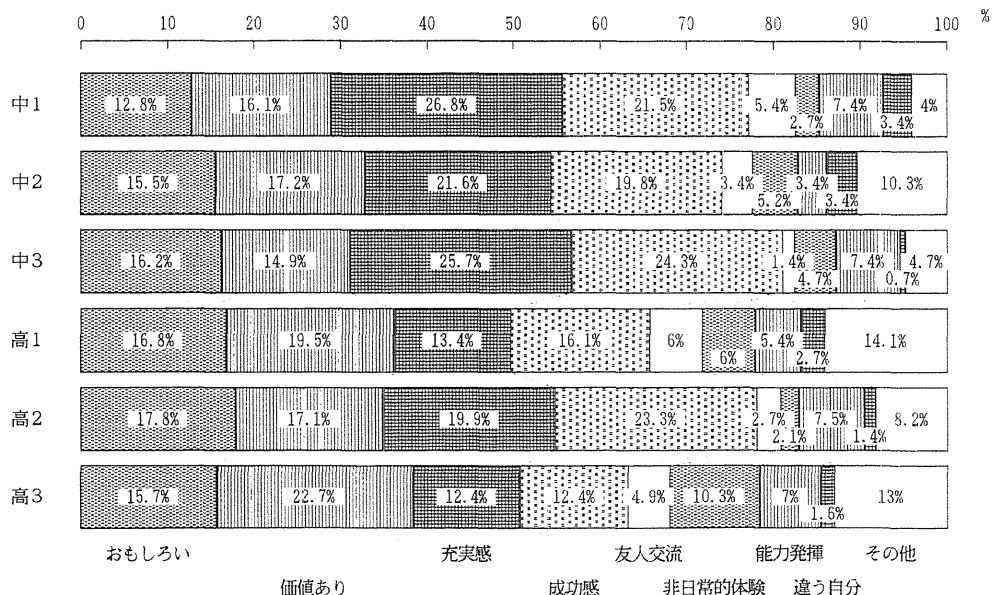
音楽祭に「積極的に参加していた」「まあまあ積極的に参加していた」とする生徒は、どのような理由で参加していたのかを質問した。

選択肢は、「おもしろいから」「価値があると思うから」「みんなで合唱し、うまくなっていくときの喜びや充実感が得られるから」「うまくいったときの成功感が得られるから」「友人との交流が楽しいから」「普段の学校生活とは違う非日常的な体験ができるから」「自分の能力が発揮できるから」「音楽祭では普段と違う自分が出せるから」「その他」となっており、該当するもの2つを選択することにした。

各学年とも「価値があると思うから」「充実感」「おもしろいから」「成功感」をあげる生徒が

多い。中学生では、「充実感」「成功感」をあげる生徒が多く、音楽祭までの練習過程の充実ぶりが表れていると考えられる。高校生では、「価値あり」とする生徒が多くなり、この行事への価値観が形成されていると考えられる。

図3. 音楽祭に積極的に参加する理由



(2) 消極的な参加の理由

音楽祭への参加の様子を尋ねた質問で、「どちらかという消極的な参加」「まったく消極的な参加」を選択した者の理由を質問した。選択肢は表3の項目に示されており、その中から2つ選択させた。

表2. 消極的な参加の理由 *中全-中学生全体, 高全-高校生全体

項目	中1	中2	中3	中全	高1	高2	高3	高全
曲がつまらない	3	2	7	12	11	6	5	22
価値がないと思うから	3	6	3	12	6	8	8	22
疲れるだけだから	4	2	6	12	7	7	7	21
なんとなくやる気がしない	8	15	8	31	24	21	11	56
思い通りのことができない	3	1	1	5	4	3	2	9
失敗ばかりしてきたから					3	1	2	6
友人との交流がわずらわしい		1		1				
一緒に楽しめる仲間がいない	1			1	2	3	1	6
塾での勉強が遅れるから					2		2	4
その他	6	13	6	25	11	23	16	50
回答数	28	40	31	99	70	72	54	196
回答者数(人数)	15	17	14	46	41	35	30	106

消極的参加の者は、中学生で全体の12.5%、高校生で全体の22.2%になっている。その理由は、中高ともに「何となくやる気がしない」を選択する生徒が多くなっている。特に中学2年生ではこの傾向が強く、中弛み傾向とも考えられる。高校では「何となくやる気がしない」を選択する生徒が学年進行とともに減少している。

「その他」を選択する者は中高ともに多く、今回の質問項目では消極的な参加者の参加理由を十分に拾える調査にはなっていないことを指摘しておきたい。

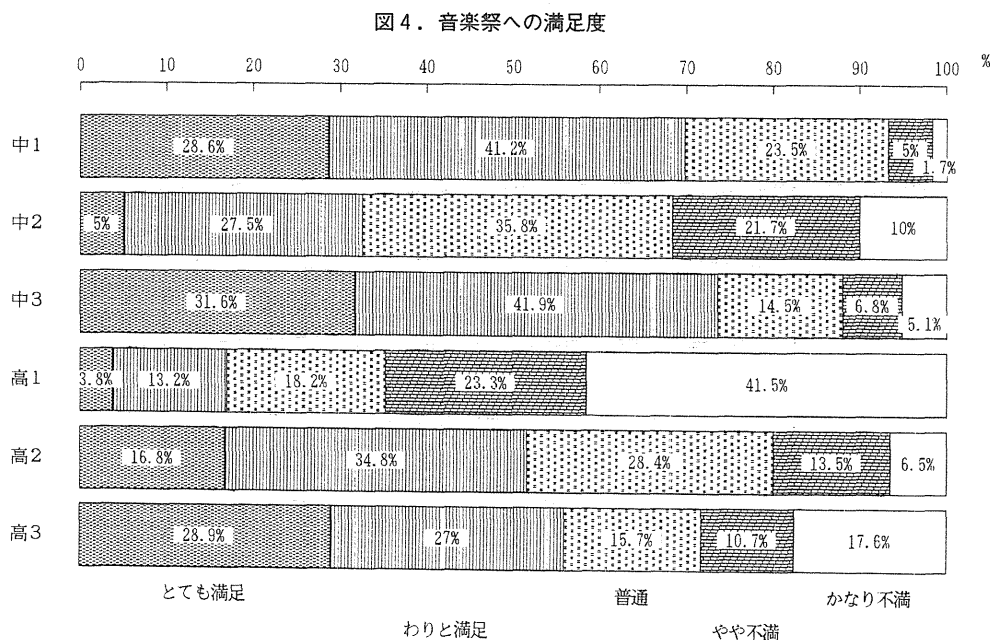
第4章 音楽祭が生徒の人格形成に及ぼす影響について

(1) 音楽祭の評価

音楽祭が生徒の人格形成に及ぼす影響を調べるに当たり、生徒が音楽祭をどのようにとらえているのかを調査した。

1. 音楽祭の満足度

生徒が音楽祭をどのように評価しているのかを満足度により調べてみた。



これによると、音楽祭への評価は学年により大きく異なっていることがわかる。

特に、中学2年生と高校1年生では「とても満足」「わりと満足」とする生徒が50%を下回っており、特に高校1年生では17%しかいないことが示されている。

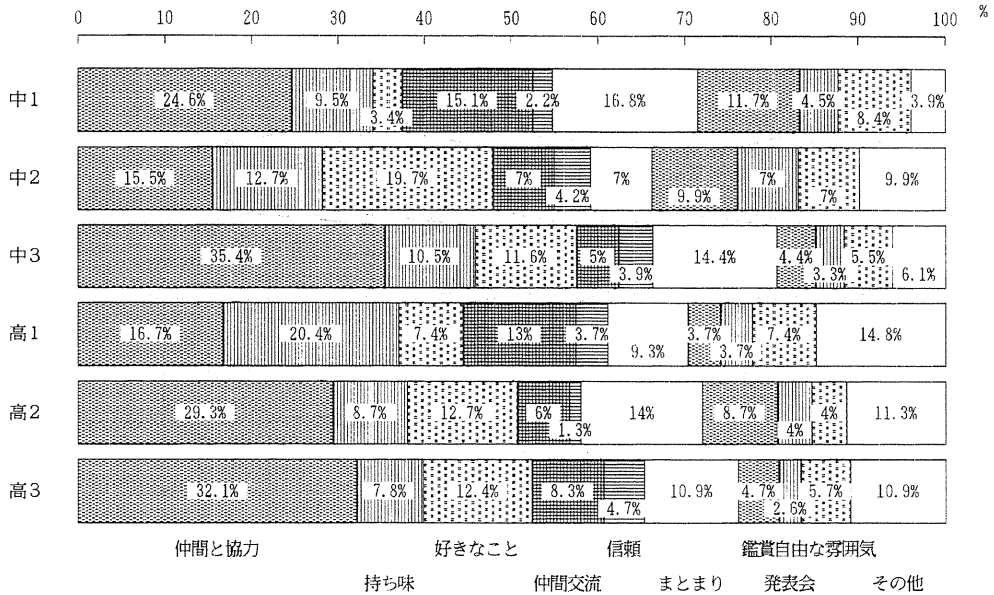
2. 満足度の理由

図4では、「とても満足した」「わりと満足した」を選択した生徒の理由が示されている。選択肢は、「仲間と協力して仕事をする事ができた」「自分の持ち味が出せたこと」「自分の好きなことができたこと」「仲間との交流が深まったこと」「仲間から信頼を得られたと思うこと」「クラスのまとまりを感じる事ができたこと」「他の学年やクラスの取り組みが見られたこと」「先輩や後輩と一緒に発表会を聞いたこと」「学校の自由な雰囲気が感じ取れたこと」「その他」からなり、該当するものすべてを選択させた。

中学2年と高校1年を除き各学年とも「仲間との協力」をあげる生徒が多い。特に中学3年生と高校3年生はそれぞれの最終学年ということで、賞を獲得するためにクラスがまとまり、その中で結びつきが満足度の内容に反映していると考えられる。

中学2年生と高校1年生では「自分の持ち味が出せたこと」や「自分の好きなことができたこと」を選択する生徒が多くなり、クラスでのまとまりよりも個人的な満足が満たされたことを評価している様子が見られる。

図5. 満足度の理由



3. 各学年の取り組みからみた満足内容

音楽祭での楽しさをどのようにとらえているのかを質問した。回答は該当するものすべてを選択させた。

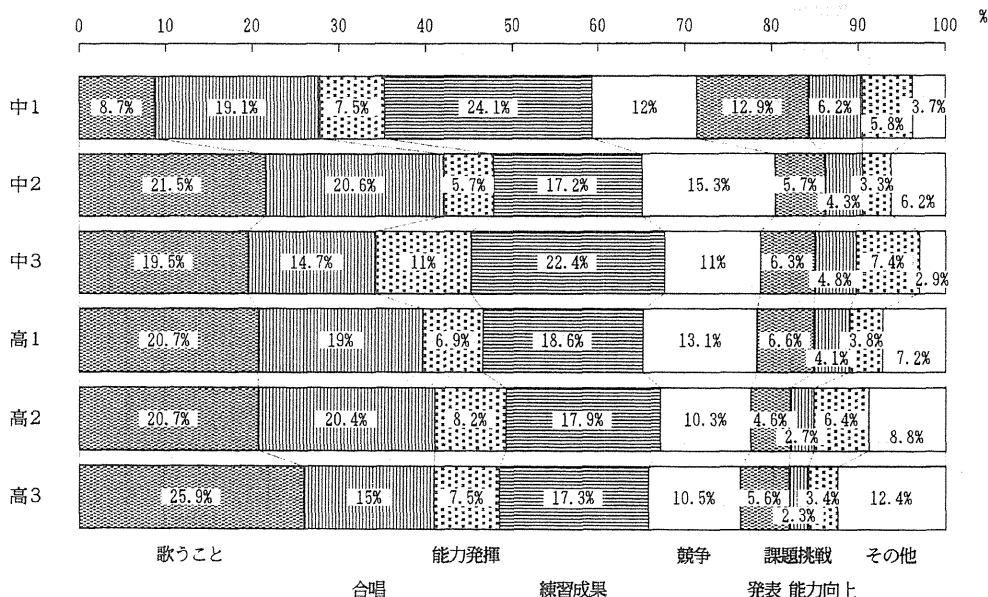
『図中の項目名』

1. 歌うことが楽しい

歌うこと

- | | |
|-----------------------------|------|
| 2, みんなで合唱するのが楽しい | 合唱 |
| 3, 自分の能力が出せるのが楽しい | 能力発揮 |
| 4, 練習した成果が, 結果として現れるところが楽しい | 練習成果 |
| 5, 他のクラスと競争するのが楽しい | 競争 |
| 6, 練習の成果を発表することが楽しい | 発表 |
| 7, 難しい課題に挑戦するのが楽しい | 課題挑戦 |
| 8, 自分の音楽の能力が高められていくのが楽しい | 能力向上 |
| 9, その他 | その他 |

図6. 音楽祭の楽しさ



これによると, 各学年とも「歌うことの楽しさ」や「合唱することの楽しさ」を選択する生徒が多く, 音楽祭そのものが持つ価値が評価されていると考えられる。次に多く選択されている項目は「練習成果」で, 約1か月にわたる取り組みが評価されることへの期待が表れている。

4. グループ別にみた満足度

5グループと満足度の関係を見ると, 積極推進派では「とても満足」と「わりと満足」を合わせると58%以上の生徒が満足していると答えているが, 一方では「やや不満」「かなり不満」を合わせると28%もの生徒が不満があったと回答している。特に高1についてみると, 「積極推進-かなり不満」の57人のうち33人が高1の生徒で占められている。音楽祭に対して積極的に参加し, しかもクラスの中心的な働きをしながらついでこない生徒に対して不満を表しているといえる。反対に高1の「消極逃避派-かなり不満」をみると全校33人中高1は18人となり, お互

いが不満足を表している状況が示されている。

消極逃避派は、「どちらともいえない」を挟んで満足派と不満足派に分極している。これは消極逃避派が、「なんとなくやる気がしない」という理由で消極的参加を行っている者と、「内容がつまらないから」「自分の思い通りにできないから」という理由で消極的な参加になっているものとで構成されているからと考えられる。ただここでは、内容に不満な者が「不満」としているのか、それとも「やる気のない者」が「不満」としているのかは判別できない。

表3. 5類型と満足度（音楽祭）

	とても満足	わりと満足	どちらとも	やや不満	かなり不満	人数
積極推進	108	162	67	73	57	467
フォロアー	9	11	15	9	6	50
冷静派	3	6	7	1	5	22
中間派	17	34	48	15	13	127
消極逃避派	18	34	48	15	33	148

5. 不満足の原因

音楽祭に対して「やや不満」「かなり不満」とした生徒が、どのような理由で選択したのかを質問している。

選択肢は、1 - 「自分の好きなことができなかった」、2 - 「自分の能力があまり発揮できなかった」、3 - 「仲間との関係がうまくいかなかった」、4 - 「信頼できる仲間が少なかった」、5 - 「クラスや班のみんながまとまらなかった」、6 - 「いやな仕事を押しつけられたから」、7 - 「準備に時間と労力がかかって疲れたら」、8 - 「最初からやりたくなかったから」、9 - 「その他」で、該当するものすべてを選択させた。

表4. 音楽祭で不満足とした者の理由

回答数

選択肢	中1	中2	中3	高1	高2	高3
好きなことができなかった		1	2	4	6	5
能力があまり発揮できなかった	4	8	3	13	7	6
仲間との関係がうまくいかない	2	2	1	10	4	4
信頼できる仲間が少なかった	2	4		11	4	9
クラスや班のみんながまとまらない	5	22	7	68	17	23
いやな仕事を押しつけられた		1		3	2	3
どの発表もつまらなかったから	1	1		7	2	8
時間と労力がかかり疲れた	2	3		10	2	4
最初からやりたくなかったから	3	2	1	11	1	8
その他	3	13	11	35	12	25
回答数	21	57	25	172	57	95
回答者数(人数)	8	38	14	103	31	45

不満足の原因では、どの学年も「クラスのみながまとまらなかったから」をあげる生徒が多く、回答者数における割合は中学2年で58%、高校1年で66%、高校2年で55%となっている。生徒が感じる不満足の内容は、音楽祭そのものへの不満よりもクラスで一つにまとまって取り組めなかったということに対する不満がより大きな原因となっていることが示されている。

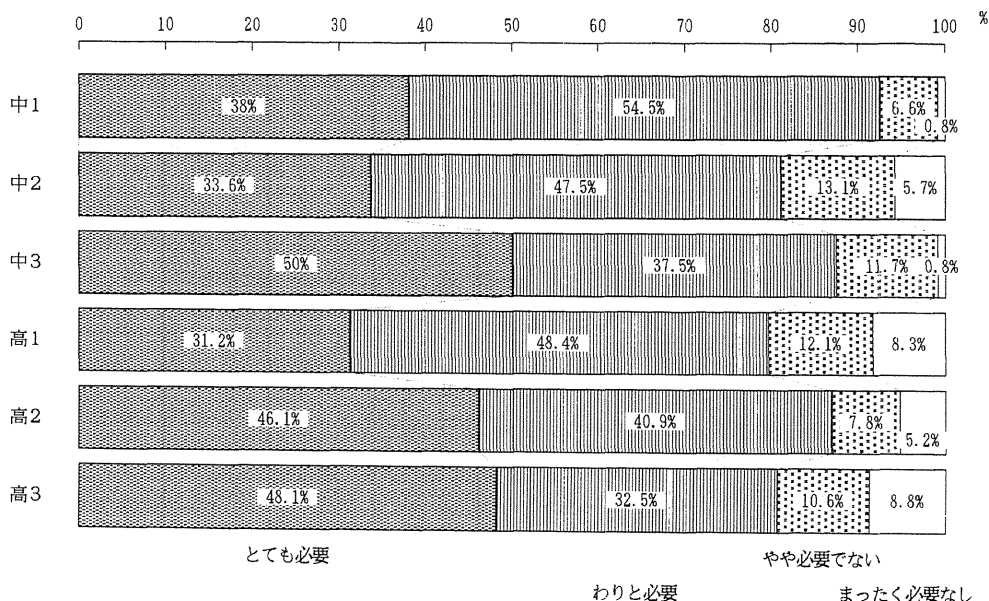
特に高校1年生では、160名中103名、実に64%の生徒が不満足としている。このことは図4の「満足度の理由」で「仲間と協力」が約16%と低いところからも伺える。しかし、生徒の音楽祭への楽しみ方をみた図5では、他の学年と比較して音楽祭そのものが嫌いという意見が見いだせないことより、この数値はこの学年の特質と考えられる。

6. 音楽祭の必要価値

生徒にとって音楽祭は必要なのかどうか、またどのようなところに価値を感じているのか質問した。

これによると、各学年とも80%以上の生徒が「音楽祭は必要」と回答しており、特に中学1年生では約92%もの生徒が支持している。一方、「とても必要」は、高学年ほど支持が高く、中学3年、高校2年、高校3年で50%近くの生徒が必要性を指摘している。

図7. 音楽祭の必要性



次に音楽祭そのものの発表において、生徒達がどのような意味を感じているのか質問した。

質問項目

<図中の項目名>

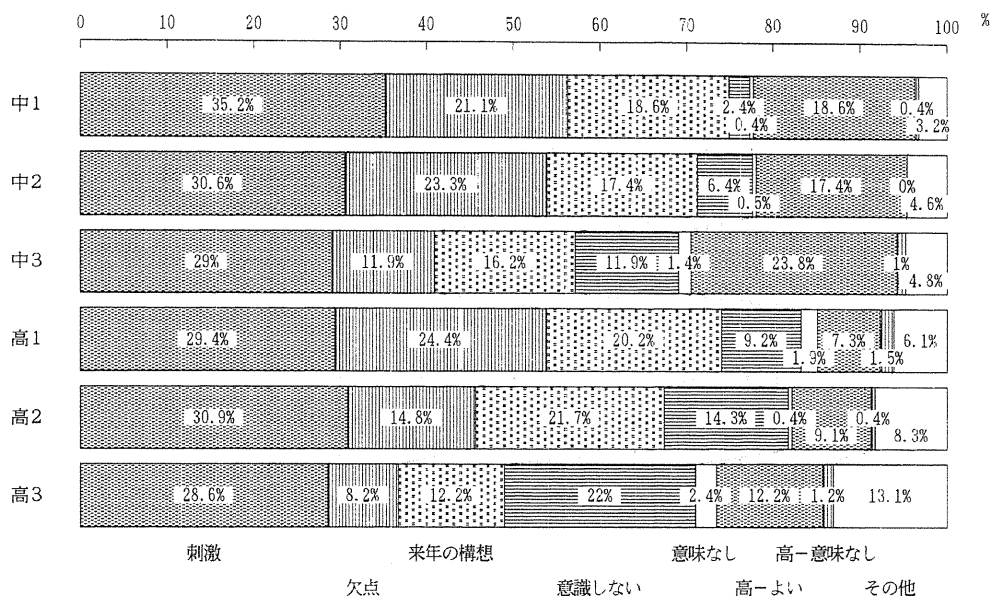
- (1) 上級生のレベルの高い発表を聴くことができ刺激になる
- (2) 自分たちの合唱の欠点がよくわかる。

- 刺激
- 欠点

- | | |
|-------------------------|--------|
| (3) 来年の取り組みの構想が浮かんでくる | 構想 |
| (4) あまり意識していない | 意識なし |
| (5) 他の学年の発表を聴いても意味がない | 意味なし |
| (6) 高校生の発表を聴けるのは非常によい | 高-よし |
| (7) 高校生の発表を聴いてもあまり意味がない | 高-意味なし |
| (8) その他 | その他 |

なお、高校3年生は、以前のことを思って答えるように指示した。

図8. 音楽祭の発表を聴く意味



これによると、ほとんどの学年で「刺激」を選択する生徒が多い。自分たちの「欠点」では、中学1・2年高校1年で高くなっており、レベルの高さが刺激材料になっていると考えられる。中学生は「高校生の発表が聴けるのは非常によい」を選択する生徒が多く、特に中学3年生は約23%の生徒が評価している。

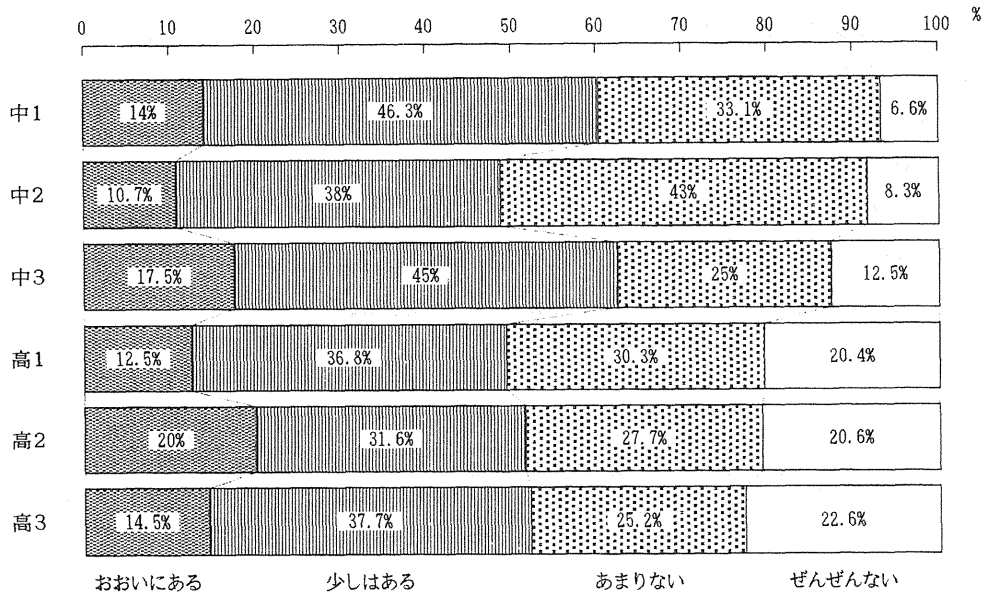
(2) 音楽祭と人格形成

1. 音楽祭が『自分づくり』に与える影響

多くの生徒は、音楽祭に参加する中で様々なことを感じ取り、また教科では得られないことを学び取っている。

「音楽祭に参加するなかで自分の人格形成のうえで役立ったことがありますか」という質問に対して、「おおいにある」「少しある」と答えた生徒は50%程度で、中学1年と中学3年生で高い値が示されている。

図9. 音楽祭と人格の形成

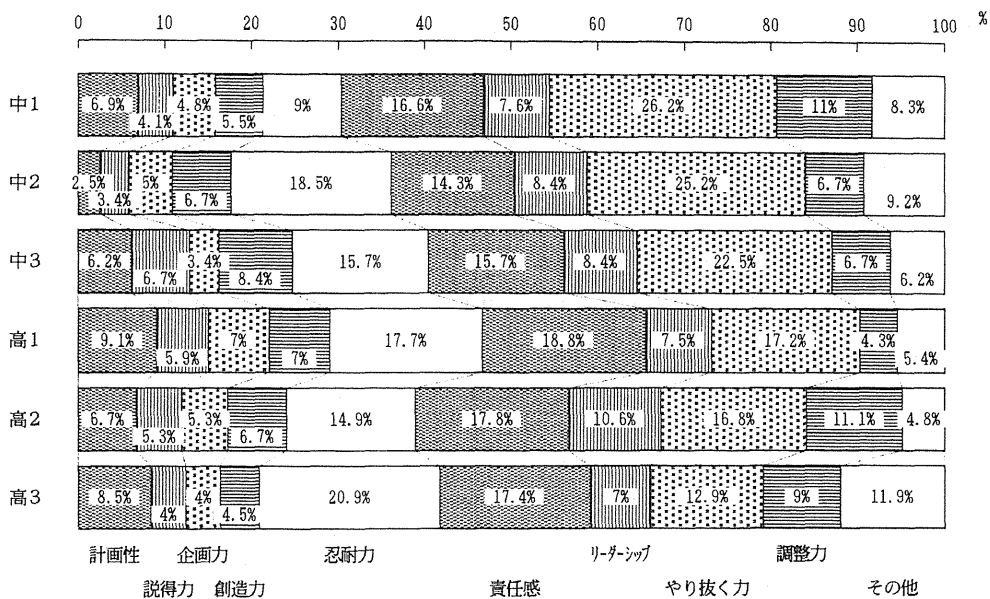


2. 人格形成の内容

次に音楽祭が人格形成に影響していると答えた生徒について、それはどのような内容なのか質問した。ここでの選択肢は、1 - 「計画性」、2 - 「説得力」、3 - 「企画力」、4 - 「創造力」、5 - 「忍耐力」、6 - 「責任感」、7 - 「人をまとめていくこと」(図ではリーダーシップとした)、8 - 「やり抜く力」、9 - 「人の意見を聞くこと」(図では調整力とした)、10 - 「その他」で構成され、該当するものすべてをあげさせた。各学年とも「計画性」「企画力」「創造力」で低い値が示されている。これは行事の性格によるものと考えられる。

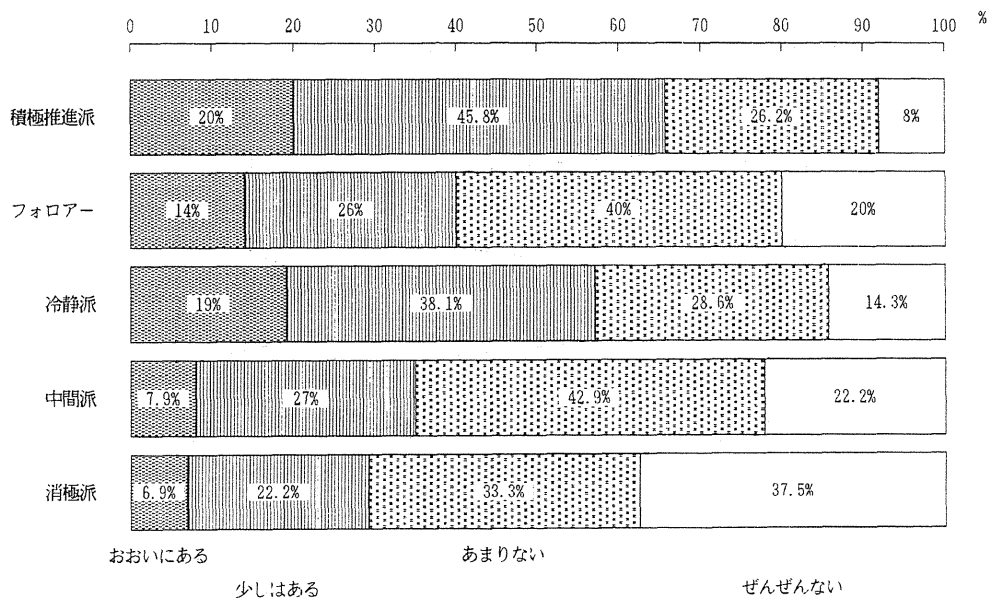
「やり抜く力」と「忍耐力」に注目すると、「やり抜く力」では、学年の進行とともに値が低くなっているが、反対に「忍耐力」は高学年になるに従い増加傾向にある。そもそも、「やり抜く力」は積極的な意欲を表しやすい能力表現であるのに対して、「忍耐力」は受け身的能力の表現であるともとらえることができる。したがって、低学年では「ハリキリ度」にともなう能力評価がなされ、反対に高学年では受け身的な状況での能力評価がなされているとも考えられる。

図. 10 人格への影響の内容



3. グループ別にみた人格への影響

図. 11 グループ別にみた人格への影響



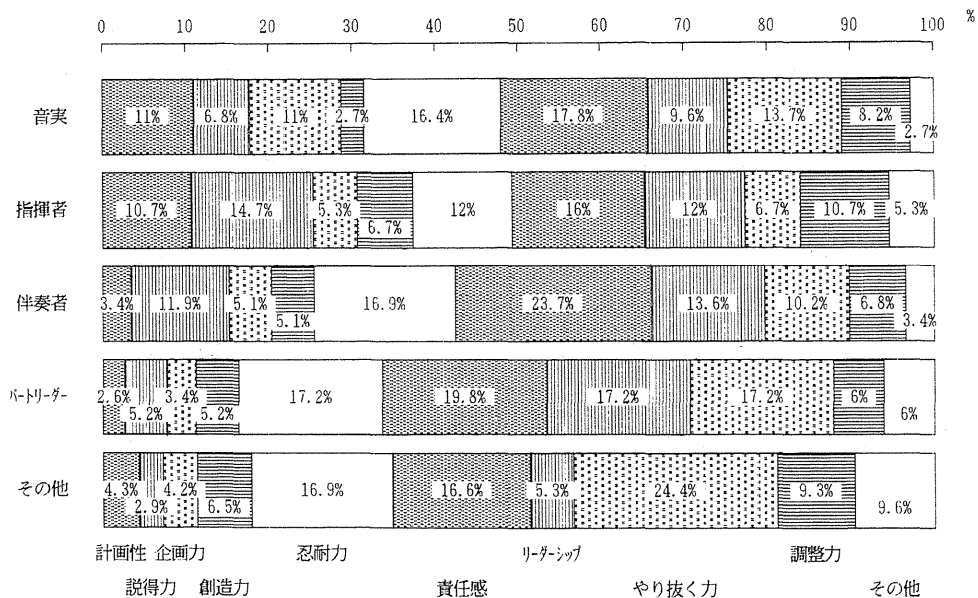
グループ別にみていくと、積極推進派の約60%の生徒が「おおいにある」「少しはある」と答えている。冷静派でも集団の数は少ない（21人）が、約57%の生徒が「おおいにある」「少しはある」としている。しかしフォロアーでは約42%、中間派と消極派では40%以下になっている。

4. 役割と人格内容

音楽祭における役割が人格の形成にどのように作用しているのか質問した。役割は、フォーマルには各クラスで選出される2名の音楽祭実行委員、指揮者、伴奏者、パートリーダーとその他の生徒に分けられる。図11では、中学1年から高校3年までの各役割をまとめて人格内容との関係をもっている。これによると、役付きの生徒は「リーダーシップ」において「その他」の生徒より高い値が示されており、特にパートリーダーで最も高くなることから音楽祭を遂行するための困難さがこの個所に表れているといえる。

次に、「説得力」では指揮者と伴奏者が高い値を示している。これは役目柄このような能力が問われるところからきていると考えられる。

図12. 音楽祭の役割分担と人格形成



(4) 音楽祭での友人との交流について

学校行事は、生徒の人格形成に影響を及ぼしているが、それが行事の内容によるのか、それとも行事に取り組む仲間集団によるものなのか区別することは困難である。ただ、行事に取り組むなかでの仲間集団からの影響は、人格形成の上で非常に大きな要因であると考えられるので、以下では行事における人間関係に焦点を当て調査を行った。

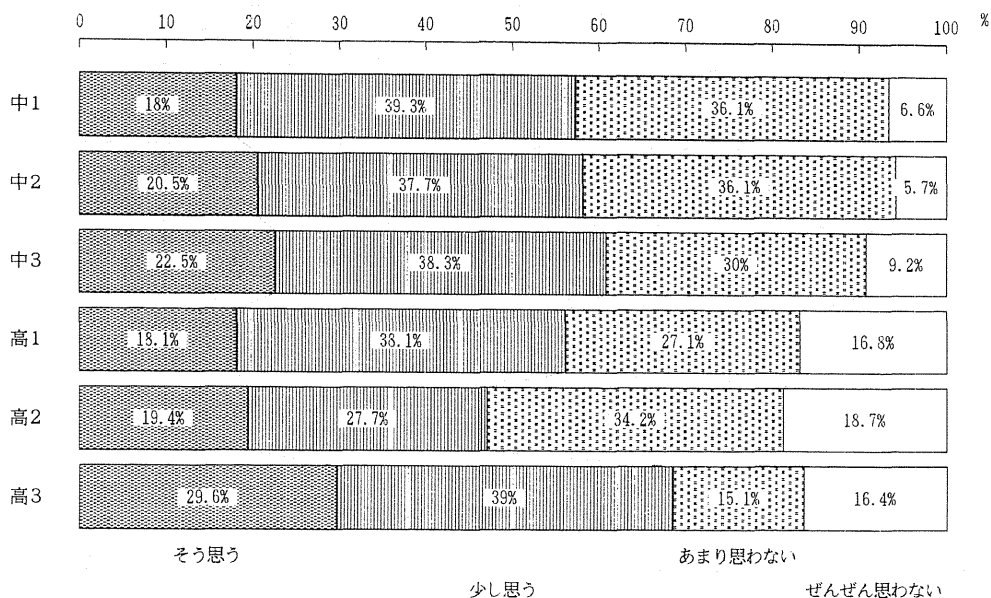
1. 音楽祭での友人関係

次に、「音楽祭は、友人をよく知るよい機会」かどうかを質問すると、「そう思う」「少し思う」とする生徒が非常に多く85%以上の値を示している。

高校2年生以外は、各学年とも「そう思う」「少し思う」を合わせると55%以上の生徒が友人

をよく知るよい機会だととらえており、高校3年生では約67%の生徒が支持している。高校3年生は、最後の音楽祭として入賞をねらうために多くの生徒が学年に比べて真剣に練習に取り組み、そのなかでの人間関係が親密になること原因と考えられる。

図13. 音楽祭での友人関係



3. 音楽祭での友人関係の内容

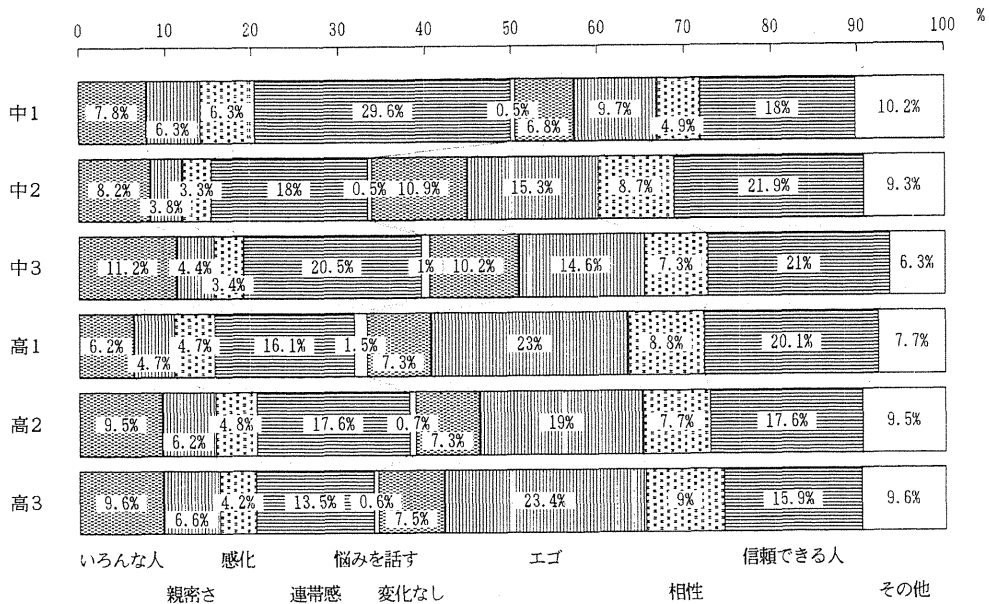
次に音楽祭での友人との交流の内容について質問している。選択肢は以下の項目。

<図中の項目名>

- | | |
|---------------------------------|--------|
| 1 - 「いろいろな人つき合えるのがよい」 | いろいろな人 |
| 2 - 「日常より親密につき合えるのがよい」 | 親密 |
| 3 - 「仲間での話し合いで感化されることが多い」 | 感化 |
| 4 - 「仲間との連帯感が得られるのがよい」 | 連帯感 |
| 5 - 「普段思っている意見や悩みを話すことができるのがよい」 | 悩みを話す |
| 6 - 「普段のつき合いとあまり変わらない」 | 変化なし |
| 7 - 「人のエゴがよくわかる」 | エゴ |
| 8 - 「自分と気が合う人と合わない人がよくわかる」 | 相性 |
| 9 - 「信頼できる人は誰だかよくわかる」 | 信頼 |
| 10 - 「その他」 | |

*これらの選択肢から該当するものすべてを選ばせた。

図14. 音楽祭での友人関係について



各学年とも「人のエゴがよくわかる」「信頼できる人は誰だかよくわかる」という項目を選ぶ生徒が多い。この2つの項目を縦断的にみていくと、「エゴ」は学年進行とともに増加し、反対に「信頼できる人」は学年進行とともに減少している。高校生の「エゴ」の増加は、担任教師が生徒たちの自主性を育てるために担任主導を控えるため、自分勝手な行動をとる生徒が増えることが要因として考えられる。反対に「信頼できる人」の減少は、学年の進行とともに充分彼らのなかで友人に対する評価がなされ、ことさら音楽祭で指摘するまでもないという意識が働いたとも考えられる。

次に、「仲間との連帯感が得られるのがよい」を選択する生徒が多く、特に中学1年生では約50%の生徒が支持しており、音楽祭の特徴がよく表れている。

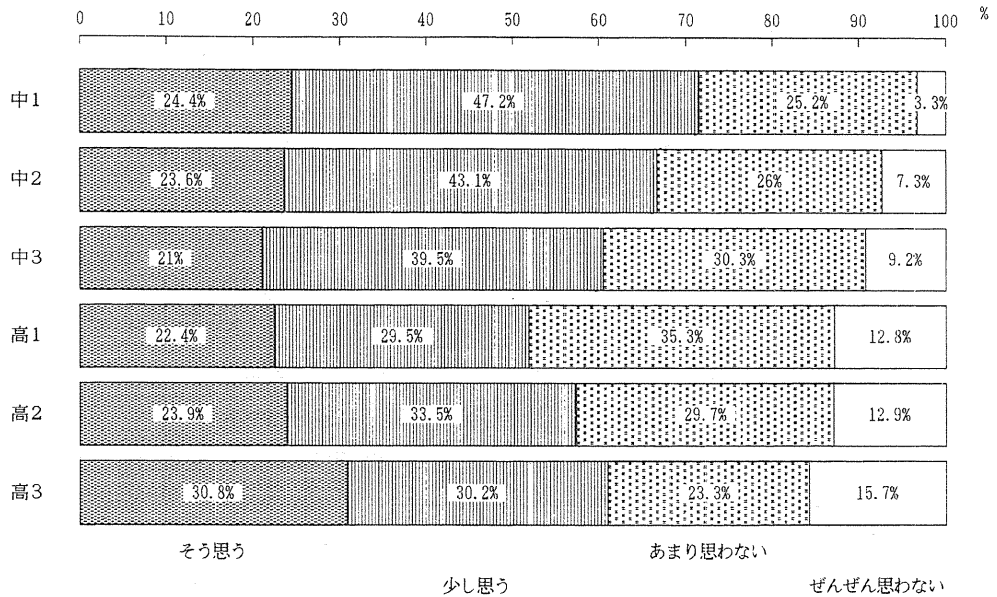
(5) 学校文化と人格の形成

ここでは本校でしばしば使われる「自由闊達」という言葉を用いて学校文化と学校行事の関係を考えてみた。

1. 音楽祭と校風の関係

全体からみると、「音楽祭は学校の校風（いわゆる自由闊達など）を学ぼうえで役立っていると思いますか」という質問で、「そう思う」「少し思う」とする生徒は50%以上存在している。その表れ方は中学1年生が高く（約71%）、その後高校1年生（約52%）まで減少し、高校2年生より上昇に転じるという傾向を示している。

図. 15 学校文化と音楽祭



2. 音楽祭において校風を感じるどころ

それでは次に、学校の校風をどのようなところで感じるのかを質問した。これは「音楽祭は学校の校風を学ぶうえで役立っていると思いますか」という質問に「そう思う」「少し思う」と答えた生徒を対象にして、以下の項目から2つを選択させた。

- 1 - 「曲決めや練習方法に自分たちの意見が反映される」,
- 2 - 「みんなで話し合いながら進めることができる」,
- 3 - 「教師が生徒の自主性を尊重してくれるところ」,
- 4 - 「学校での規則があまりないところ」,
- 5 - 「時間にゆとりがあるところ」,
- 6 - 「発表内容のレベルが高いところ」,
- 7 - 「その他」

結果では、中高ともに「曲決めや練習方法に自分たちの意見が反映される」「みんなで話し合いながら進めるところ」を選択する生徒が多いことが示されている。

これは、自分たちが考えた意見を自由に発表し、クラスや班の中でそれを受け止められて議論され、実現・実行していく機会や場がある。そしてこれらの生徒の活動を教師は尊重して自主性を育てているという関係になるが、このようにとらえている生徒はどれくらい存在するのかというと、図14より「そう思う」「少し思う」とした生徒が全体の約70%~50%にあたり、その中で上記2つの項目を選択した生徒は約67%~50%存在することより、全生徒における上記3つの選

択者の割合は約47%~25%になると考えられる。

中学3年生では、特に「発表内容のレベルが高いところ」を選ぶ生徒が多い。これは中学の最終学年として、音楽祭に意欲的に取り組み、レベルが高いところまで自分達の合唱が仕上がったという意識があるところから選ばれていると考えられる。

図16. 音楽祭において校風を感じるどころ

